9日6日（金）評価

『^{せいがい}正解のない^{もんだいしゅう}問題集』の^{はなし}話です。

マイトは^{せんせい}先生と^{なかよ}仲良くしている。サクラは「テストの^{てんすう}点数は^{わたし}私の方が^{ほう}いいのに、どうして、マイトと^{せいせき}成績が^{おな}同じなの？」と^{ふまん}不満に^{おも}思っている。^{せんせい}先生と

^{なかよ}仲良くしているから、^{せいせき}成績がいいのだと^{おも}思っているのだ。

どうしても^{なっとく}納得がいかないサクラは、^{ほうかご}放課後、^{せんせい}先生に聞いてみた。「なんで、^{わたし}私とマイトの^{せいせき}成績が^{いっしょ}一緒なんですか」と。

すると^{せんせい}先生は、マイトは^{まちが}間違えていたとしても^{しゅくだい}宿題を^いていないに^わやってくることを、^{わから}分からないところは^{せっきよくてき}積極的に^{しつもん}質問して^{はな}くることを、サクラに^{あと}話した。そして、その後

「サクラとマイトの^{ちが}よさは^{ちが}違う。サクラのいいところだつて、^{せんせい}先生は^わ分かっているつもりだぞ」と^い言ってくれた。

どうですか？ この^{はなし}話のサクラみたいに^{かんが}考えたことはないですか。^{せんせい}先生たちは、テストの^{てんすう}点数や^て手を^あ挙げた^{かいすう}回数^{だけ}だけで^{こども}子供たちを^{ひょうか}評価することは^{ない}のです。それだけは、^し知っ

いてもらいたいです。

村越 新